

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	健康推進課	氏名	中村 真裕子
派遣先 団体名	出雲市鳶巣コミュニティセンター		

① 研修の日時

日 時	内 容
平成 27 年 7 月 12 日 (日) 19:30～20:00	放課後子ども教室「鳶巣ゆめひろば」保護者説明会 会場準備、受付業務
平成 27 年 7 月 20 日 (月) 8:30～14:00	鮎のつかみ取り体験 作業補助、見守り
平成 27 年 8 月 5 日 (水) 8:30～12:00	鳶巣ゆめひろば(子ども料理教室(低学年)) 学習支援、料理教室補助
平成 27 年 8 月 6 日 (木) 8:30～16:30	鳶巣ゆめひろば(子ども料理教室(高学年)) 学習支援、料理教室補助、事務作業
平成 27 年 8 月 21 日 (金) 8:30～15:00	鳶巣ゆめひろば(鳶巣地区交通安全講習会) 会場準備、受付業務
平成 27 年 11 月 23 日 (月) 9: 30～16:00	健康講演会 会場準備、会場案内

② 研修の内容

【放課後子ども教室「鳶巣ゆめひろば」保護者説明会】

参加者:保護者約30名

・放課後子ども教室とは、子どもたちが放課後や休日を安心、安全に過ごし、多様な体験活動を行い、心豊かに育まれる環境をつくり、地域の方や異年齢でのふれあいを通して、お互いを認め合い温かく関わり合える関係づくりを推進する取り組み。

・鳶巣ゆめひろばは、夏休みに開催されるものであり、H27年度は鳶巣地区の小学生107名中54名が参加予定。

◇感想

「ゆめひろば」開始以来、参加予定人数が最も多く、地域の保護者からの期待の大きさを感じました。

【「わかあゆの里」(出雲市乙立町)にて鮎のつかみ取り体験】

参加者:155名(鳶巣幼稚園児と保護者(約40家族)、小学生、教諭、スタッフ)

・鳶巣幼稚園愛育会、ボーイスカウト出雲第7団、鳶巣コミュニティセンター自主企画事業の協働で開催されるもので、第3回目の今回は通園児のほぼ全員が参加した。

・保護者、特に父親が主体となってテントの設営等の会場準備を行い、開会式と諸注意連絡の後、2つのプール(小学生用と幼稚園児用)に放流された鮎のつかみ取り開始。

・鮎を焼く作業も、父親が中心になって行っていた。

◇感想

放流されたばかりの鮎は、思った以上に泳ぎが速かったため、初めは子どもたちも躊躇している様子でしたが、徐々に捕まえた鮎を得意そうに親に見せる光景が増えてきました。

泳いでいる鮎を自らの手で捕まえて、手の中で鮎の動きを感じ、それを目の前で焼いて食べるという「食育」体験でした。‘命をいただいている’という意識を、保護者から子どもたちにきちんと伝えてほしいと感じました。

また、活動を通じて、親子の交流、同じ年の子ども同士の交流、年下の子に鮎をつかませようと手助けをする異世代交流、保護者同士の交流という、4つの交流を見ることができました。

特に、日頃は一緒に過ごすことができない親子にとっては、一緒に自然体験をすることができる貴重な機会になっていたようです。後日、キャンプ場の予約をした家族もあり、このような活動が今後の自然体験や親子交流につながる大切なきっかけづくりにもなっていることがわかりました。



【鳶巣ゆめひろば～子ども料理教室(低学年)～】

- ・前半は高学年(4～6年)が各自持参した教材を行う学習の支援。
- ・後半は低学年(1～3年)が行う料理教室の補助。JA女性部による指導のもと、お握らず(鮭フレークとゆで卵、ケチャップライス)、ピーマンの肉詰め、トマトと卵のスープ、ドーナツを作る。
- ・低学年は、調理作業の殆どを大人が行い、ゆで卵の皮むきやソーセージを切る、お握らずを作ることが主となる。
- ・実施後の反省点として、卵アレルギーの子どもがいたことが教室当日にわかったため、メニューを事前に確認しておく必要があったこと、ピーマンやトマトはそのままあるいは大きなカットだったため、それらが苦手な子どもは食べることができず、形がわからないようなカットにするなどの工夫が必要であった等の意見があった。

【鳶巣ゆめひろば～子ども料理教室(高学年)～】

- ・前半は低学年が各自持参した教材や施設で準備した教材を行う学習の支援。
- ・後半は高学年が行う料理教室の補助。内容は低学年と同様だが、包丁で切る作業、調理器具の片づけ等、子どもの役割が増えた。
- ・子どもたちは、JAの方の口頭による指示のみで自主的に動いていた。また、女子児童は大人がしている調理作業に興味を示し、作り方を聞くなどの様子が見られた。
- ・試食でも、好き嫌いを申し出る子どもは殆どいなかった。

◇感想

学習は元教員の方が支援を行い、料理教室はJAの方による指導や保護者が補助として参加されるなど、地域の方の協力あつての活動であると感じました。

料理教室では、低学年と高学年のそれぞれでお手伝いさせていただきましたが、同じ献立を作る過程で、年齢の差(成長による変化)を目の当たりにした気がして、新鮮に感じました。



【鳶巣ゆめひろば～鳶巣地区交通安全講習会～】

参加者:約170名(演奏者、高齢者、幼稚園児、小学生、ゆめひろば講師、交対協スタッフ、職員)

・島根県警察音楽隊を出演者、一般住民を観客として、不特定多数の人々が集うイベント開催時における地震を想定した避難訓練。利用者が参加する火災訓練は年2回実施しているが、不特定多数による訓練は初めて。

・雨天のため、室内(アリーナ)でのシェイクアウト訓練を実施。また、参加者には災害用備蓄米(炊飯したもの)を配布するとともに起震車で震度7までの揺れを体験してもらう。

・訓練終了後に警察音楽隊によるコンサートを再開し、コンサートの合間に、交通安全、振り込め詐欺防止、鍵かけを呼びかける話をされた。

【健康講演会～桂吉弥氏の落語会～】

参加者:約140名(地域住民)

・笑いは免疫力向上につながるという観点から、落語会を開催するもの。

・参加者には、地区の診療所の医師からの勧めで来たという方や、市外から来られた方もいた。

◇感想

小規模な会場で観客席から近く、とてもアットホームな会でした。会場は、終始笑いに包まれ、帰られる参加者の方の満足そうな笑顔が印象的でした。

③ 研修の感想

出雲市には43箇所のコミュニティセンターがあり、鳶巣コミュニティセンターでは、約1,500名の地区住民が健やかで生きがいをもてる心豊かなふるさとづくりを目指し、地区の住環境や若年から高齢までの各世代が抱える課題に即した事業が展開されていました。そのうち、6回の活動に参加させていただきました。

センターの敷地内には幼稚園が隣接していることもあり、幼稚園児から高齢者まで幅広い世代が利用する施設となっていました。そして、関係者だけでなく地区の方がふらっと寄って、世間話をして帰っていくという光景も頻繁に目にしました。このセンターが地区の方にとって大切な交流の場になっている証なのだと思います。

事業のお手伝いをさせていただく中で特に印象に残ったことは、事業に携わる地区の方が持つ専門性や特技を総動員させてイベントを作り上げていらっしゃったことです。自分たちの地区は、自分たちが責任をもって守っていくという、力強い決意を感じました。

そして、これほど活発に活動されている地区があることを知ることができたのは、今後の業務を行っていく上で大きな収穫でした。

最後に、今回、この研修を受け入れてくださり、名前と顔を覚えてくださり、いつも暖かく迎えてくださった職員の皆様、地区の皆様に感謝申し上げます。

④ その他特記事項

(注1)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。

(注2)報告書は、平成28年1月31日までに人事課あてにメールで提出してください。